

学校訪問



山里学習と トランペット鼓隊

西山小学校

1

市内の小学校の特色ある活動などを紹介する新コーナー「学校訪問」。第1回は、備中町にある西山小学校(赤木源一校長)です。市の西端、広島県境の標高約550メートルのところに西山小学校があります。

「西山小学校の特色の一つは、地域の人とふれあう『山里学習』でしょう。野菜作りをしたり、昔あそびやグラウンドゴルフを教えてもらったりしています。また、運動会や学習発表会も一緒にし、参観日には地域の人が多く来てくださいます」と赤木校長。

6年生は「西山つ子祭り」で、地



山里学習 (野菜作り)

域の人にわたがしなどを振る舞い、喜んでもらえてうれしかった(阿曾宏美さん)、「お手玉やおはじきをして地域の人と楽しく触れ合えたよ(松井夕月希さん)など、地域の人と一緒に楽しそうに活動する写真を見ながら、感想を話してくれました。

西山小学校の特色で、もう一つ忘れてならないのが、平成4年から取り組んでいるトランペットの音楽活動。青く澄みわたった西山の空にちなんで「ブルースカイブルーNISHIYAMA」と命名されたこのトランペット鼓隊の演奏は、学校行事のほか、地域のイベントややすらぎ荘の訪問など、多くの場所で披露しています。



今年は「ドレミの歌」と「鉄腕アトム」を中心に練習をしています。

指導に当たる堀田治教諭は「この学校へ赴任したときは、トランペットは全く吹けず、子どもたちの方がずっと上手でした。私たちも子どもたちと一緒に懸命に覚えるんですよ」と話します。

取材した日は、演奏を披露する「童謡まつり」の2日前。「6年生だけで演奏するソロの部分を頑張りたい」と目を輝かせながら抱負を語ったのは6年生の嶋村実枝さんと嶋村美里さん。本番では見事な演奏ができたようです。

栄光をたたえます

文化やスポーツ活動の全国大会出場、それに準じる成績を収めた人・団体を紹介します。

◆大月生美さん(高梁小5年・倉敷ジュニア所属)



全日本小学生ソフトテニス選手権大会(8月6〜9日・岐阜県)に出場予定。「得意技はツイスト。1回でも多く勝てるように頑張りたい」

◆吉備国際大学アーチエリート部



全日本学生アーチエリート男子王座決定戦(6月27〜28日・静岡県)に出場。「大事なのは準備を怠らず、集中して自分に勝つこと」と4年生の長友さん。

◆吉備国際大学ソフトテニス部



全日本大学ソフトテニス王座決定戦(6月10〜13日・東京都)に出場。「4年連続出場を決められてほっとした。連続出場を伸ばしてほしい」と4年生の吉川さん。

「栄光をたたえます」に情報をお寄せください

市内で活動し、上記に該当する人・団体の情報があればお知らせください。

■問い合わせ・連絡先 企画課公聴広報係 (TEL)0210



地産地消で 地域に元気を

うかん風ぐるま市場百姓グループ
(有漢町)



明るく元気な声が響く朝の集荷作業

ふるさと市場での販売も始まりました。また、平成15年7月にスタートした学校給食への食材の納入も、特色ある取り組みの一つです。

毎月中旬、

「こっちのナスは、もう車に積んでええんかな」「給食センターの分は、はよう持つて行ってあげてえよ」。午前8時半、風ぐるま市場に、採れたての野菜や果物を持ち寄った「うかん風ぐるま市場百姓グループ」の皆さんの元気な声が響きます。

風ぐるま市場は、うかん常山公園にある直売所で、旧有漢町が整備し平成13年4月に完成。現在、その管理運営を行っているのが、平成14年6月に発足した地元生産者団体「うかん風ぐるま市場百姓グループ」です。

グループ名は、「会員100人で常時100種類以上の農産物を出荷しよう」と名付けました。現在、会員は60〜70歳代を中心に、40歳代から90歳半ばの人まで70人。

地産地消に積極的に取り組んでおり、風ぐるま市場での販売のほか、平成17年1月からは市内大型店舗の

提供できる食材を有漢学校給食センターへ連絡。献立や食材の内容をみて、月末ごろ、給食センターから翌月分の注文が入ります。有漢保育園からも毎週注文があります。

「注文を受けたら、誰がどの日にどの食材を出荷するかを振り分けます。その日の給食に使う食材を市場に集め、給食センターに毎朝届けているんですよ。学校でも、今日のトマトは〇〇さんが作ったもの」といったように紹介していただいているようで、励みになります」と代表の中山晃子さん(60)。学校の給食集会に招かれ、会員が出席することもあるそうです。

また、よりよい提供のため、グループの定例会に栄養士や調理師を招いて、納入した食材についての率直な感想を聞き、意見を交換しています。

「毎朝、集荷作業でみんなと顔を合わせ、話ができるのも楽しみの一つ。張り合いがですよ」と大森政子さん(68)。また「お互いに、この袋詰めだと思えば悪い」とか、言い合うこともしばしば。けんかや勘違いはあれそうですが、気心の知れた仲です。よいものを届けたいという気持ちにはみんな一緒」と湯浅佳子さん(70)。

消費者の体験事業なども、積極的に受け入れている百姓グループの皆さん。地産地消で、地域に元気を呼び込んでいます。